

単独型短期入所の実施状況 に関する調査報告

令和2年2月14日

調査・研究委員会

※この調査は、一部の種別を除いて把握していなかった単独型短期入所について、会員事業所全体の状況を調査した結果である。

【調査基準日】

令和元年6月1日

【調査票送付回収状況】

対象	送付数	回答数	回収率
本会会員事業所を運営する法人	2,137	1,253	58.6

※実数下段の小数点を含む数値は合計の割合（％）を表している

※％表示は実数より算出し四捨五入しているため、合計が100％とならないことがある

※設問により同年度の全国知的障害児者施設・事業実態調査における空床利用型・併設型短期入所及び令和元年度全国グループホーム実態調査（2019年度地域支援部会・相談支援部会関係調査報告書）における併設型短期入所の調査結果と比較している

1. 単独型短期入所に関する調査結果

本会会員事業所を運営する法人 2137 か所に FAX 調査を行い、1,253 か所から回答を得た（回収率 58.6%）。

(1) 単独型短期入所の実施状況

単独型の短期入所は 1,253 法人のうち、180 法人が実施していると回答している（全体の 14.4%）。

事業所ごとに調査しているため一概には比較できないが、障害児入所施設における短期入所（空床・併設）実施状況が 88.6%、障害者支援施設における短期入所（空床・併設）実施状況が 94.5%、これらと比較すると少ない値となっている（グループホームの併設型の実施状況は 165 事業所、12.5%）。

しかし、本体施設の人員配置を活用できない単独型短期入所では、新たな職員配置が必要となるため、妥当な数字とも考えられる（近年のニーズを受けて増加傾向である事は推測できる）。また、入所施設における空床型・併設型の短期入所を実施している法人は、単独型短期入所を実施する必要がないと考え、実施していない事も推察される。

実施している	実施していない	計
180	1,073	1,253
14.4	85.6	100

(2) 複数の単独型短期入所の実施状況

単独型短期入所を実施している法人も、事業所数は 1 か所が最も多くなっている（87.8%）。緊急時に備えるための設置で、1 か所あれば対応できるが、事業所ごとに夜間帯の人員配置が求められるため、複数の事業所で実施するのは難しい現状もうかがえる。

	1 か所	2 か所	3 か所	4 か所	5 か所	計
実施法人	158	16	2	3	1	180
	87.8	8.9	1.1	1.7	0.6	100
実施事業所	158	32	6	12	5	213
	74.2	15.0	2.8	5.6	2.3	100

(3) 定員規模別事業所数

単独型短期入所の定員規模に関しては、3 人以下の事業所が 48.8% を占めており、入所施設の併設型の同割合 31.5% に比べると、比較的小規模な事業所が多いことが分かる（事業所の空き部屋やアパート、戸建ての住宅の部屋数に因るとも考えられる）。また、6 人定員までの事業所が 88.7% を占めており、人員配置基準が影響しているとも推察される（夜間対応職員の最低基準：6 対 1）。

1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人	7 人	8 人	9 人	10 人	11~15 人	16 人以上	無回答	計
21	51	32	44	17	24	3	6	0	6	6	1	2	213
9.9	23.9	15.0	20.7	8.0	11.3	1.4	2.8	0.0	2.8	2.8	0.5	0.9	100

(4) 利用実績（平成 31 年 4 月～令和元年 6 月までの 3 か月間）

1 事業所当たりの利用実人数は、実施している施設数で平成 31 年 4 月から令和元年 6 月までの 3 か月間の利用実人数を割り返した値である。単独型短期入所の利用実績は 1 事業所当たり 27.6 人と、入所施設空床・併設型の利用実績 15.3 人を大きく上回っており、地域の多くの契約者の多様なニーズに対応している事が推察される。なお、グループホームの併設型においては 6.9 人と少ない数となっているが、小規模・同ユニットで入所利用者に与える影響も大きいと、不特定多数の利用者のニーズに応えるのが難しい事が推測される。

利用実人数	利用件数（延べ）	利用泊数（延べ）	1 人当たりの平均 利用件数	1 事業所当たりの 3 か 月間の利用実人数※
5,874	16,988	28,017	2.9	27.6

※実施している施設 213 か所で利用実人数を割り返した数

(5) (4) の利用件数（延べ）内訳

単独型短期入所の利用件数の内訳は、1 泊 2 日の利用が 73.7%を占めており（入所施設空床・併設型の同割合の 51.7%）、2 泊 3 日を加えると 90%を超える結果となった。緊急的な短期間の利用に対応している事が想定されるが、人員配置の関係で、長期間の利用には対応できない事業所も多いことが推察される。なおグループホームの併設型においても、1 泊 2 日が 65.5%、2 泊 3 日が 13.8%と単独型短期入所と同様の傾向となっている。

泊数	1 泊	2 泊	3 泊	4～6 泊	7～13 泊	14～28 泊	29 泊以上	不明	計
利用 件数	12,524 73.7	2,802 16.5	744 4.4	681 4.0	113 0.7	29 0.2	71 0.4	24 0.1	16,988 100

(6) 現在利用中（滞在中）の方の最長泊数

単独型短期入所の最長泊数は 7 泊までが 79.3%と大半を占めているが、31 泊以上の利用も 13 人、9.3%存在している事が分かった。また、180 泊以上が 4 人、最長泊数は 582 泊という回答も存在した。

最長泊数	～7 泊	8～14 泊	15～21 泊	22～30 泊	31～60 泊	61～90 泊	91～179 泊	180 泊以上	計
法人数	111 79.3	9 6.4	1 0.7	6 4.3	5 3.6	1 0.7	3 2.1	4 2.9	140 100

(7) 年間 180 日以上利用した方の理由

年間 180 日以上利用した理由に関して、入所施設空床・併設型で 180 日以上利用した方は「入所入居待機（入所施設・GH・その他の福祉施設）」が 63.1%で最も多かったのに対し、単独型短期入所では「入所入居待機」は 47.1%と 15 ポイント以上も開きがある事が分かった。また、「その他」が 24.3%と高く、背景に入所入居希望ではない多様なニーズが存在している事が推察されるが、自由記述の回答がほとんど無かったため具体的な理由は不明である。

		計	
入 所 入 居 待 機	障害者支援施設への入所待機のため	事業所数	6
		人数	15.4
	グループホームへの入居待機のため	事業所数	17
		人数	24.3
	その他福祉施設等への入所待機のため	事業所数	8
		人数	20.5
本人・ 家族 等	本人の健康状態の維持管理のため	事業所数	3
		人数	7.7
本人・ 家族 等	家族の病気等のため	事業所数	4
		人数	5.7
地域での自立した生活をするための事前準備のため	その他	事業所数	5
		人数	12.8
計	計	事業所数	6
		人数	8.6
計	計	事業所数	10
		人数	25.6
計	計	事業所数	0
		人数	0.0
計	計	事業所数	0
		人数	0.0
計	計	事業所数	7
		人数	17.9
計	計	事業所数	17
		人数	24.3
計	計	事業所数	39
		人数	70

2. 単独型短期入所調査のまとめと展望

単独型短期入所の事業所形態は様々であるが、主に以下の形態が考えられる。

①何らかの日中活動を提供している事業所（法人）が、通所利用者の宿泊ニーズに対して、事業所の空き部屋や近隣のアパートや戸建ての住宅を利用して実施している（日中活動の職員が兼務で勤務する事が多い）。

②グループホームと同一の建物の中だが別のユニットで実施している。アパートタイプのグループホーム（浴室、トイレ、キッチン等が個室に完備）であればその並びの部屋で単独型の短期入所を実施している（GHの職員が兼務で勤務する事も多い）。

③その他、地域支援事業所（居宅介護・日中一時支援・移動支援等）や相談支援事業所、児童発達支援、放課後等デイサービス等の実施法人が、利用者の緊急時に備えて、事業所の空き部屋や近隣のアパート、戸建ての住宅を利用して実施している（緊急的な利用が多く、多職種：ヘルパー・相談員・保育士等…で臨機応変に勤務する事が多い）。

単独型短期入所は、入所施設やグループホームの空床型・併設型短期入所と違い、地域特性、地域課題、実施する法人の歴史等により様々な事業形態が考えられる。また、現在“地域生活支援拠点”の設置が進んでいるが、緊急時のシェルター機能、地域生活（自立生活）に向けた体験利用等、空床型・併設型の短期入所と共に大きな役割を果たす事が期待されている。

単独型の短期入所の利点としては、本体施設のプログラムに合わせる必要が無く、地域サービスとの組み合わせ（移動支援・行動援護・重度訪問介護等）もしやすいため、多様なニーズ（外食、買い物等…）に対応しやすい点があげられる（様々な体験利用に活用できる）。また、小規模な事業所が多いため、刺激に影響を受けやすい方、障害児等も不安なく利用できるとも考えられる。

本調査の結果からは、単独型の短期入所は、地域の利用者の様々な宿泊ニーズに対して（ニーズに応じて人員を配置していると考えられる）、短期間ではあるが柔軟に対応している現状がうかがえる。

入所施設の空床型・併設型短期入所は大規模で、利用者にとっては刺激が多い環境である事が考えられるが、様々な理由で在宅生活の継続が難しい方々をある程度まとめた長い期間支援するのに適している。空床型・併設型・単独型各々にメリット・デメリットがあるため、理想的には各地域にそれぞれが整備され、ニーズに合わせて使い分けができるようになっていく事が望まれる。

最後に、年間180日以上利用している利用者の数が、単独型短期入所事業所で平成30年度、39事業所（全体の18%）で70人、グループホーム併設型では28事業所（全体の17%）49人、特に入所施設空床・併設型では630事業所（全体の47%）で1,071人と高い数値を示している。全体のパーセンテージからすると少ないように見えるが、限られた短期入所定員枠の一定枠を占めてしまっている事となり、地域に住んでいる利用者の多様なニーズに答えられていない現状が推察される（入所待機者枠となってしまうと緊急ニーズに対応できていない）。今後追加調査をするのであれば、入所施設の空床・併設型短期入所の利用実態を深めるとともに、入所待機者の人数等を把握する事も重要となるのではないかと考える。

返信先: 日本知的障害者福祉協会 FAX 03-3431-1803 ※7月19日(金)までに返送してください

単独型短期入所の実施状況に関する実態調査

公益財団法人 日本知的障害者福祉協会 調査・研究委員会

短期入所は介護者の病気やレスパイトによる利用だけでなく緊急時の受け入れ等の機能が求められているほか、入所施設の定員が削減される中での施設入所待機等においても必要不可欠なサービスですが、平成30年度の報酬改定により年間利用期間に原則180日までの利用制限が設けられ、1回あたりの連続利用日数も30日までとされたことから、短期入所の実施状況や利用状況等の実態を把握し、国に対し必要な働きかけを行うことが必要となっています。本会ではこれまで本会会員事業所における併設型短期入所と空床型短期入所の実態調査は全国知的障害児・者施設・事業所実態調査において実施してきましたが、単独型短期入所については一部の種別を除いて実施しておらず、会員事業所全体における実施状況が把握できていませんでした。

つきましては、今後必要な働きかけを行うための基礎資料とすべく本調査を実施いたしますので、趣旨をご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願いたします。

●調査対象：本会会員事業所を運営する法人

●調査基準日：令和元年6月1日

●提出期日：令和元年7月19日(金)

●お問い合わせ：調査・研究委員会 FAX 調査係 TEL：03-3438-0466

都道府県	TEL	記入者名
経営主体の名称 (法人名)		

※本調査は単独型短期入所が対象です。併設型短期入所、空床利用型短期入所については対象外です。

[1] 貴法人における単独型短期入所の実施状況	<input type="checkbox"/> ①実施している → 事業所数 _____ 箇所 定員 (1) _____ 名 (2) _____ 名 (3) _____ 名 (4) _____ 名 ※複数の単独型短期入所を実施している場合、それぞれの定員を記入すること <input type="checkbox"/> ②実施していない → そのまま FAX してください。							
[2] 利用実績 (平成31年4月から令和元年6月の3か月間) ※複数の単独型短期入所を実施している際には合計を計上すること	①利用実人数 _____ 人 ②利用延べ件数 ● _____ 件 ③利用延べ日数 _____ 泊 例) ある利用者が4月から6月までの間に短期入所を1泊2日、3泊4日、2泊3日と利用した場合、「①利用実人数1人」「②利用延べ件数3件」「③利用延べ日数6泊」と回答のこと。 1件の泊数を計算する場合、調査期間内(4月から6月の3か月間)の報酬の対象となった泊数の合計を計上すること。							
[3] 現在利用中(滞在中)の方の最長泊数	調査基準日である令和元年6月1日現在、短期入所利用中の方の最長利用泊数を回答のこと。							泊
[4] 上記3か月間における1回あたりの利用期間	1泊	2泊	3泊	4~6泊	7~13泊	14~28泊	29泊以上	計(件)
[2] ②と合計 ● が一致すること	件	件	件	件	件	件	件	● 件
[5] 長期利用の人数	平成30年度の短期入所の総利用日数が180日以上の利用人数を回答のこと。							○ 人
[6] 年間180日以上利用する方の理由 (1人につき主たる理由を1つ選択し、人数を計上すること) ※[5]と人数計○が一致すること	①障害者支援施設への入所待機のために利用							人
	②グループホームへの入居待機のために利用							人
	③その他福祉施設等への入所待機のために利用							人
	④地域での自立した生活をするための事前準備のために利用							人
	⑤本人の健康状態の維持管理のために利用							人
	⑥家族の病気等のために利用							人
	⑦その他 (_____)							人
計							○ 人	

ご協力いただき誠にありがとうございます。